

令和5年度 桂小学校 「学校教育アンケート」考察

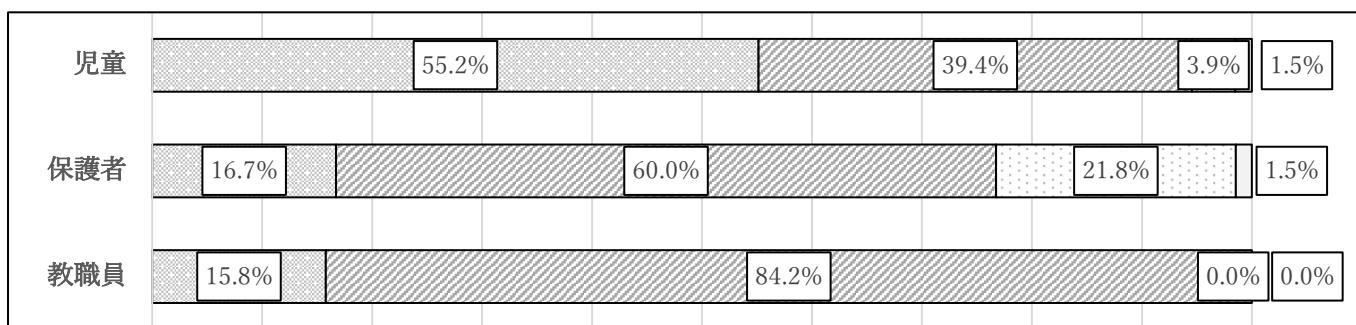
令和5年度の1回目の「学校教育アンケート」を7月に行いました。保護者の皆様には、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。今年度はスクリリ通してアンケートを実施しましたところ、275の回答をいただき、回答率は約82%となりました。

このアンケートは、桂小学校の実態を明らかにし、よりよい学校運営に活かしていくことを目的としています。回答は「よくできている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」の4つの中から選択していただきました。以下にアンケートの結果を記しますが、「よくできている」と「だいたいできている」を一つにまとめて「できている」、「あまりできていない」と「できていない」を一つにまとめて「できていない」ととらえて考察を行っています。昨年度との比較は同じ時期に実施した、令和4年度・1回目の結果と行っています。

質問① (児) 授業がよく分かる。

(保) 子どもに基礎的な学力が身につくように働きかけている。

(教) 基礎基本が定着できるようにわかりやすい授業づくりを心がけている。

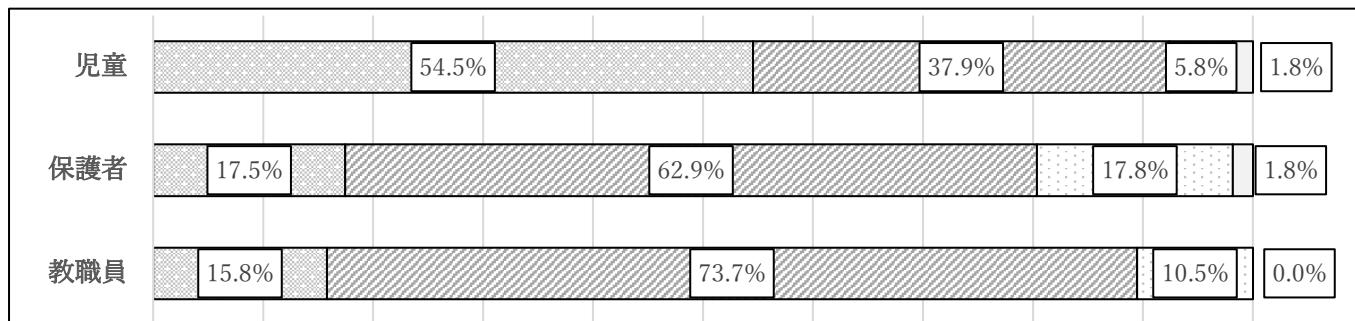


約94%の児童が「授業が分かる」と回答しており、多くの子が前向きに学習に取り組んでいる様子がうかがえます。昨年度の同時期と比べるとほぼ同じ割合で、安定した状況であるといえます。学校の教育活動の多くの時間は授業であるため、とても大切な指標であり、これからも分かる楽しい授業づくりを目指していく必要があります。本校では、授業の学習課題に応じた「めあて」と「振り返り」を意識した授業づくりを全学年で行っています。また、実感をともなったより深い学びにつなげられるよう、話し合い活動を大切にした授業づくりの工夫にも取り組んでいます。2学期以降もよりよい授業を目指して、改善に取り組んでいきたいと考えています。

質問② (児) 進んで家庭学習をしている。

(保) 子どもに家庭学習が身につくように働きかけている。

(教) 家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。



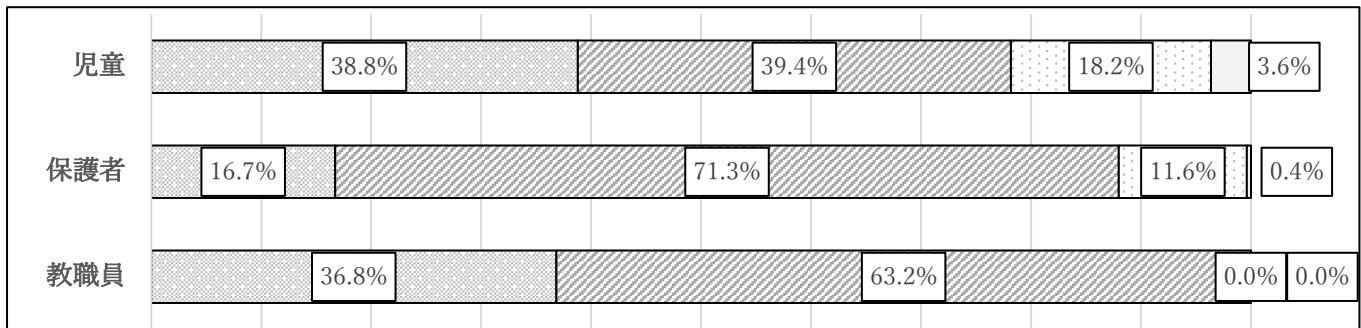
ほとんどの児童が家庭学習に進んで取り組んでいると回答しています。しかし、昨年度と比べると「できていない」と感じている児童の割合が3.5%から7.6%に増加しており、今後の課題であると考えています。また、本校では、「自分で学習できる力」を卒業までに身に付けさせることが大切であると考えており、3年生以上

の学年で自主学習にも取り組ませています。家庭学習の意義を児童自らが理解し、進んで取り組めるように継続して指導していくことで、自ら学びに向かう児童が増えてほしいと考えています。また、家庭学習習慣の定着のためには、家庭の協力が欠かせません。各家庭でルールを定め、低学年からしっかりと習慣づけできるよう取り組ませることが大切です。

質問③ (児) 授業では自分のおもいを伝えることができている。

(保) 子どもに自分のおもいが伝えられるように働きかけている。

(教) 子どもがおもいを伝えられるような授業や取組を工夫している。

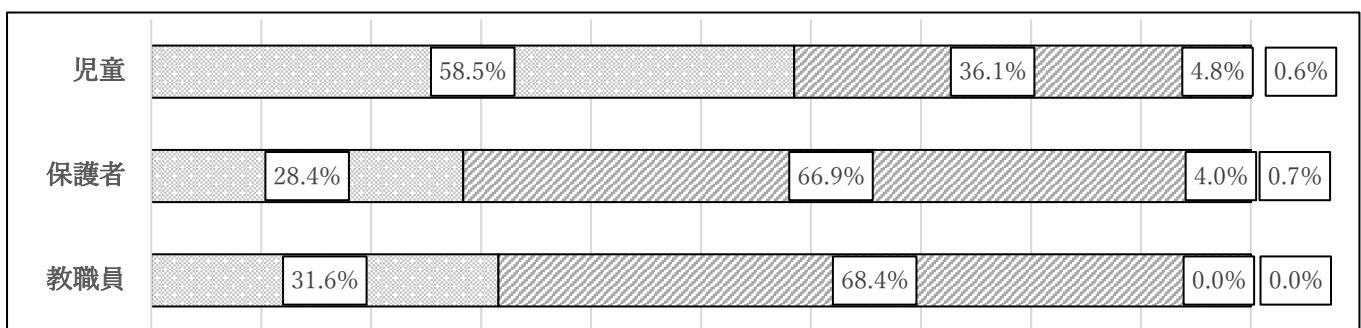


話し合い活動や伝え合う活動を大切にしている本校ですが、今年度、「おもいを伝えることができている」と感じている児童は78.2%となり、昨年度に比べ5.3%減少しました。令和5年度は「教育DX(教育のデジタルトランスフォーメーション)」の視点でICTを効果的に活用しながら、「相手の意見を受け止め、自分のおもいや考えを確かな言葉で伝え合う子」の育成を目指しています。おもいを伝え合うことを楽しいと感じ、その効果を児童が実感できるような取組を実践していきたいと考えています。

質問④ (児) 学校の決まりや約束を守っている。

(保) 子どもが学校のきまりや約束を守って生活できるように声かけをしている。

(教) 決まりや約束を守ることで、みんなが気持ちよく生活できることを伝え、適切に指導している。

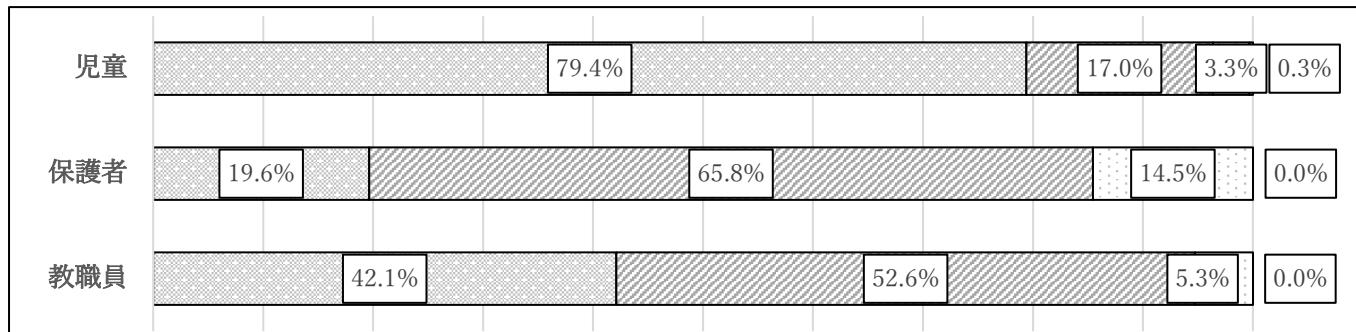


約94%と多くの児童が「守っている」と回答をしており、昨年度同様、みんなが気持ちよく過ごせるように一人一人が意識して学校生活を送っている様子が結果からうかがえます。落ち着いた学習環境を維持することは、学習効果の向上や児童が安心して学校生活を送ることにつながっていきます。日々の観察を大切にし、気になることがあればその都度指導したり、“どうしていけないのか” “どうすればよかったです”を児童が理解できるよう丁寧に指導したりしています。毎月おこなっている児童朝会では、児童会の子どもたちが中心となり、よりよい学校生活が送れるように全校児童に呼びかけもおこなってくれています。こうした、高学年の児童の正しい姿が低学年の学びにつながっていると感じています。

質問⑤ (児) 友だちやまわりの人を大切にしている。

(保) 子どもに、人を大切にした言葉づかいや行動を意識させている。

(教) 人を大切にした言葉づかいや行動をするようにしている。

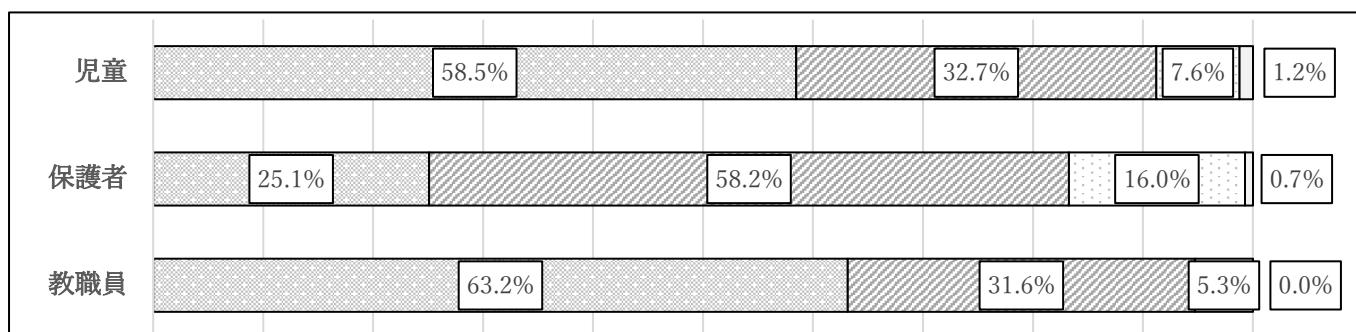


「よくできている」と回答した児童が79.4%、「できている」と回答した児童が17.0%となり、多くの児童がまわりの人を大切にした行動をとることができている状況が見えてきます。学校では教職員が、自分と違うところを認め合える雰囲気づくりや、苦手なことに努力する友だちに対して温かい声かけをする雰囲気づくりを意識して取り組んでいます。また、良さや頑張りに目を向け、小さなことでもその都度積極的に声かけをおこなうことも大切にしています。こうした小さな積み重ねが、6年間を通して少しずつ子どもたちの人権感覚の育成につながっていくのだと思います。「人を大切にしている」と胸を張れる桂小学校の児童がこれからも増えていくよう、学校での指導も引き続き行っていきたいと思います。

質問⑥ (児) 自分からすすんであいさつしている。

(保) 子どもが自分からすすんであいさつするように、家庭で声かけや自らあいさつをしている。

(教) 子どもがすすんであいさつできるように、声かけや自らあいさつをしている。

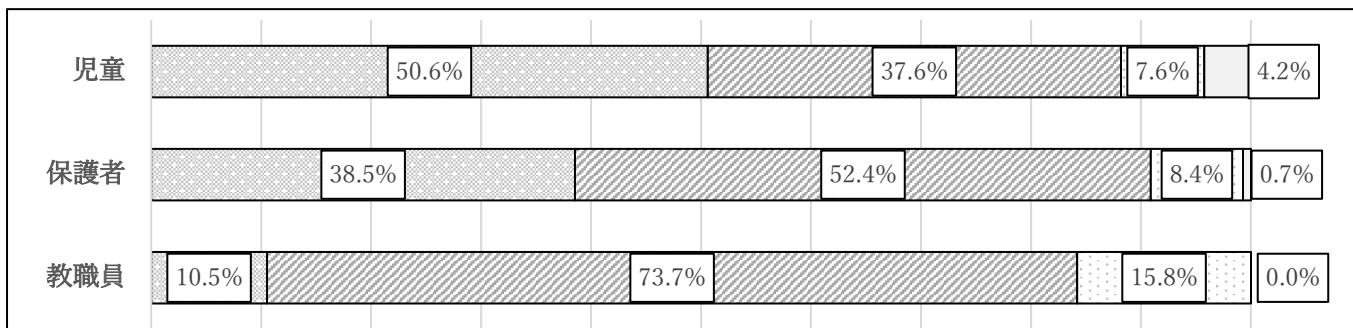


あいさつは人と人をつなぐ大切なものです。アンケートの結果からも、教職員・保護者の方たちの意識の高さがうかがえます。子どもたちには、気持ちのよいあいさつの重要性を理解し、そのスキルを身につけて卒業してほしいと思っています。そのためには、継続した声かけが必要です。家庭・地域・学校が協力することでその効果も高まると考えています。本校では、毎月25日を「にこにこの日」として、5・6年生が交代であいさつ運動を行っています。PTAの方も一緒に取り組んでくださっており、よい意識づけになっていると感じています。自然とあいさつが飛び交う桂小学校を目指して、これからも地域ぐるみで取り組んでいけたらと考えています。

質問⑦ (児) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。

(保) 家庭で、毎日同じくらいの時刻に起きるよう習慣づけている。

(教) 每日同じような時刻に起きるなどの基本的な生活習慣が定着するように、子どもや家庭に働きかけている。

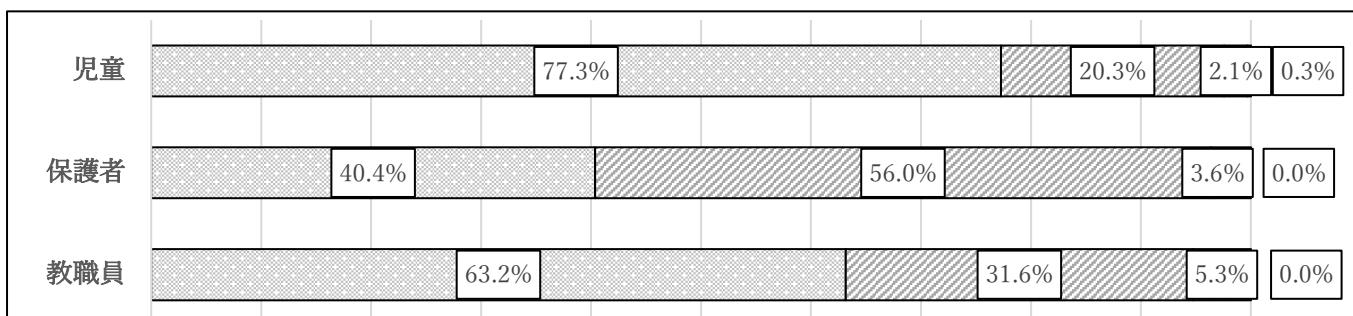


今年度は、昨年度の「早寝早起きをしている。」から「毎日同じくらいの時刻に起きている。」というように、自分で決めた、かつ学校生活を送るのにふさわしい「同じくらいの時刻」という文言を質問項目に入れました。昨年度と正確には比較できませんが、「できている」と回答した児童の割合は高く、ある程度リズムのある生活を送れていると考えられます。小学生の時期は心身の発達が著しく、睡眠や規則的な生活習慣が重要な役割を担っています。起床時刻と同様、就寝時間も定めて家族みんなで協力するなどの工夫も大切です。長期休業の後には、生活調べを取り入れ、状況を把握し、改善に向けてアドバイスする取組も行っています。学校での児童の様子を家庭にフィードバックするなど、今後も家庭と学校が協力して取り組んでいけたらと思います。

質問⑧ (児) 安全に気をつけ、命を大切にした行動をしている。

(保) 子どもに安全に気をつけ、命を大切にした行動を意識させている。

(教) 命の大切さ、命を守る行動をとることの大切さについて適切に指導している。

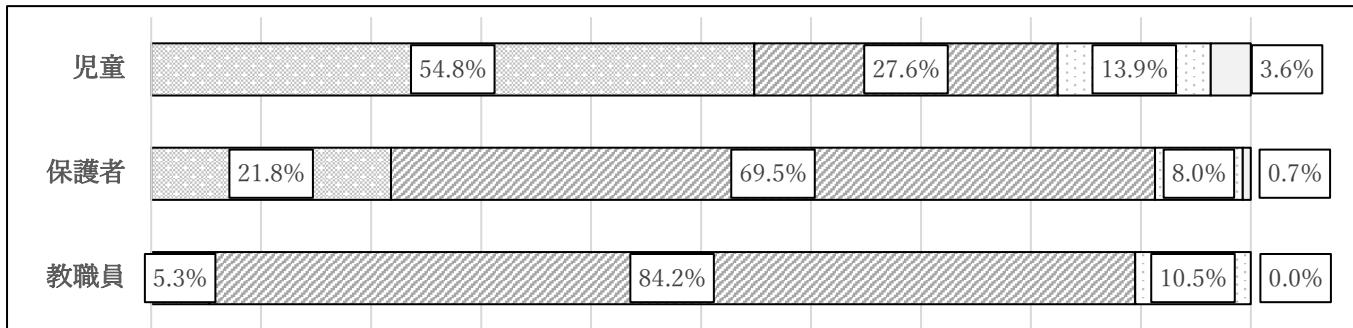


昨年度に引き続き、「よくできる」と回答した児童の割合が高い項目となりました。子どもたちの安全に対する意識の高さがうかがえます。学校が安全な場所であるということはとても大切なことです。本校では毎月、施設の安全点検を行い、不備が確認された場合は、すぐに修繕できるよう心がけています。また、自分の命を自分で守れる子の育成を意識して、避難訓練や毎月の安全指導も行っています。今年度6月には救命救急講習の他にも、緊急時対応訓練を企画・実施し、子どもたちの安全を守れるよう教職員研修も行っています。6年生では、水難事故に対する意識の向上を目指して、着衣泳の学習を取り入れています。さらに、桂校区では、みまもり隊や地域の方の安全指導も積極的に行われていることも、子どもたちの意識向上に影響していると考えています。引き続き、熱中症対策や災害対策など、季節や状況の変化にも対応できる生きる力の育成を目指して、これからも継続して安全指導をおこなっていきたいと思います。

質問⑨ (児) スポーツや外遊びで、身体を動かしている。

(保) 子どもにスポーツや外遊びで体を動かすように働きかけている。

(教) 心と体を一体としてとらえた体育学習の充実に向け、授業や取組を工夫している。

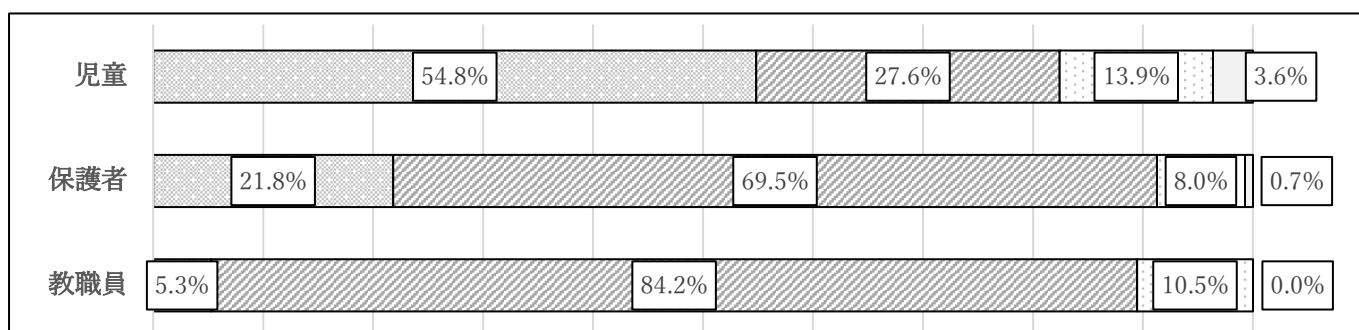


昨年度は体育専科を中心に体育の学習を進めていました。今年度は各学年で指導していますが、昨年度の成果が表れているためか、子どもたちの多くは「できている」と回答しています。これからも体育の授業では、スポーツや運動の魅力を伝え、生涯を通して運動に親しんでいけるように指導していきたいと考えています。また、休み時間には多くの子が運動場に出て、外遊びを楽しんでいます。心身の健康維持や、体力向上にも外遊びは有効だといわれています。また、異学年や集団での遊びを通して、ルールを守ることの大切さに気付き、協調性も育ちます。今年度は秋に「桂体育フェスティバル」と銘打って体育参観を行います。今後も、心と体が成長できるような体験を学校でもできるよう意識して取り組んでいきたいと思います。

質問⑩ (児) 家で学校でのできごとを話している。

(保) お便りやホームページ、子どもの話などから、学校での子どもの様子を把握するように心がけている。

(教) お便りやホームページで学習活動のねらいや子どもの様子を伝えている。

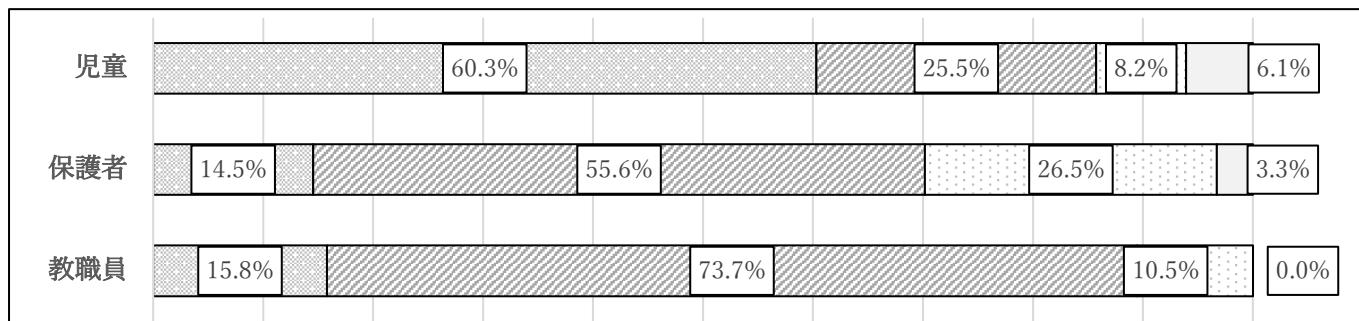


昨年度の結果と比較してみると、「できている」と「できていない」の割合はほぼ同じですが、保護者と教職員では「よくできている」と「だいたいできている」に開きが見られます。子どもの状況を把握しようと意識している保護者の方のニーズに応えるため、学級通信やホームページを通して、学校の様子や教育活動のねらいをお知らせすることにさらに力を注ぐ必要性を感じます。保護者の方に子どもの様子や学校の取組の意図を理解していただくことは、教育効果を向上させるためにも重要です。今年度から「スクリレ」の活用を始めましたので、より使いやすい・分かりやすい情報の発信の仕方も工夫していきたいと考えています。これからも、子と親のつながりをサポートできるよう、有意義な情報を多く発信することを目指して、通信やホームページを改善していきたいと思います。

質問⑪ (児) PTA 行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。

(保) 子どもが PTA や地域の行事に参加できるように働きかけている。

(教) 開かれた学校を目指して、地域・保護者と連携・協力することを意識している。

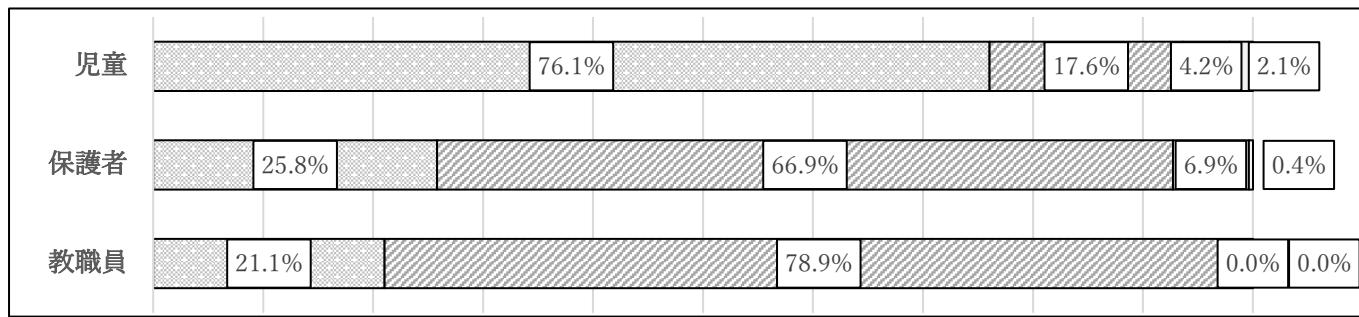


今年度は「ザ・かつらまつり」の復活などをはじめ、多くの地域や PTA の行事が戻ってきました。「ザ・かつらまつり」では多くの子どもたちの笑顔を見ることができました。保護者の方の意識も昨年度は「できている」が 64.4%でしたが、今年度は 70.1%となり、子どもたちが PTA や地域の行事に参加できるようにより働きかけてくださっていることが窺えます。また、多くの団体・関係者の方にも行事の見守り活動に携わっていただき、本当に感謝しております。桂の子どもたちを取り巻く様々な団体が協力しあい、子どもたちのために活動できるようこれからも働きかけをしていただきたいと思います。また、教職員も開かれた学校を目指して、地域・保護者の皆様とさらに連携・協力をしていきたいと考えています。

質問⑫ (児) 学校では楽しく過ごしている。

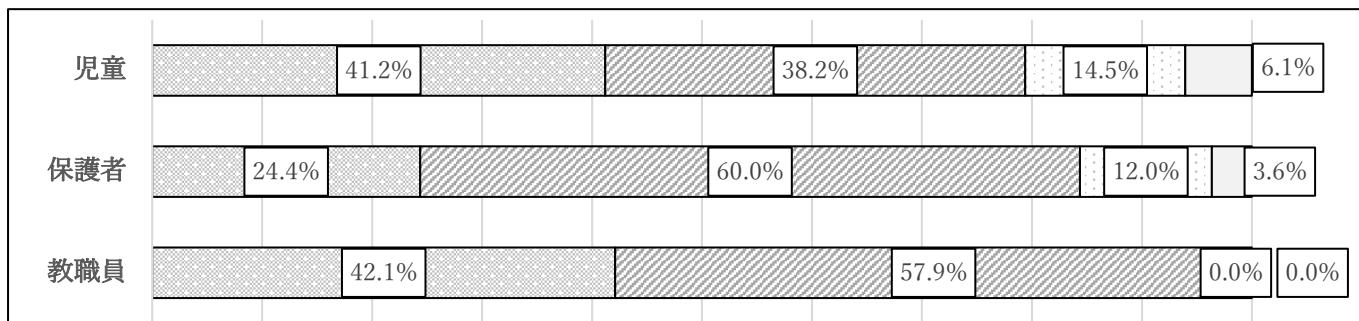
(保) 子どもが楽しく学校に通えるように家庭でも働きかけている。

(教) 子どもが学校へ行きたいと思える学級経営を心がけている。



およそ 93% の児童が「楽しく過ごしている」と回答をしており、多くの子が楽しく学校に通えている様子が分かります。しかし、友だち同士のトラブルや学習に対する不安がないわけでもありません。学校に笑顔で楽しく通ってほしいというのは学校の願いでもあり、親の願いでもあることだと思います。本校では、6月と 10 月にはいじめアンケートと教育相談を設定し、子どもたちの悩みや不安を吸い上げられるようにしていきます。また、日々の観察も大切にし、早期発見・早期解決につなげられるよう、学校でも組織的に取り組んでいます。一方で、「楽しくない」と回答している児童がいることも重く受け止め、どのように対策していくのかを組織的な課題としてとらえ努力していきたいと思います。

- 質問⑬ (児) 困ったときや不安があるときは、学校の先生に相談できる。
 (保) 困った時や不安があるときは、学校や担任に質問したり相談したりできる。
 (教) 子どもや家庭から個別の相談を受けたとき、解決にむけて真摯に対応している。



約2割の子どもが、困った時や不安があるときに先生に相談できない、と回答しています。これは昨年度ならびに一昨年度とほぼ同一の値であり、改善しているとはいえない状況であることが分かります。今後、優先的に対策を講じていく必要のある項目であると考えます。児童や保護者から信頼される学校・教職員であるために、児童・保護者とのコミュニケーションを積極的にとるようにしたり、学年・学校体制で相談に対応したりするなど、必要なときに必要な助けやアドバイスができる「チーム学校」であるようにこれからも努力していこうと考えています。